

教授 **加藤 陽子** (戸籍名は野島陽子) KATO, Yoko

1. 略歴

- 1983年3月 東京大学文学部国史学専修課程卒業 (文学士)
- 1985年3月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了 (国史学)
- 1989年3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得満期退学 (国史学)
- 1989年4月 山梨大学教育学部専任講師 (日本史学)
- 1991年4月 山梨大学教育学部助教授 (日本史学)
- 1992年12月 文部省在外研究員として、スタンフォード大学東アジアコレクション、ハーバード大学ライシャワーセンター研究員
- 1994年4月 東京大学文学部助教授 (日本史学)
- 1995年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授 (日本史学)
- 1997年2月 博士 (文学) 取得
- 2009年4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授 (日本史学)

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本近代史

b 研究課題

1930年代の日本の政治と外交、近代日本の天皇制、いわゆる男子普通選挙制下の帝国議会議事録を読む

c 概要と自己評価

専攻は日本近現代史で、1930年代の外交と軍事を専門としている。近代において起こされた戦争が当該期の政治や社会に持った意味、あるいは、日清・日露・第一次世界大戦など、10年ごとになされた観のある戦争の記憶が総体として国民や国家に対してもたらした影響等について研究してきた。近年は、2011年の公文書管理法施行により利用しやすくなった宮内公文書館や国立公文書館の史料を用い、大正・昭和戦前期の詔書作成過程を研究している。また、昭和戦前期の政治史を専門とする歴史研究者として、日中関係史、日米関係史についても目配りしてきた。史料公開の先進性で知られるアメリカはもとより、近年では中国、台湾等でも史資料の公開が活発になってきたこともあり、内外の研究者との交流に努めている。

d 主要業績

(1) 著書

- 単著、加藤陽子、『天皇の歴史 8 昭和天皇と戦争の世紀』、講談社、2018.7
- 編著、加藤陽子、歴史学研究会編、加藤陽子責任編集『天皇はいかに受け継がれたか』、績文堂出版、2019.2
- 単著、加藤陽子、『天皇と軍隊の近代史』、勁草書房、2019.10

(2) 論文

- 加藤陽子、「歴史と憲法のあいだ 天皇と憲法を中心に」、『憲法問題』、30号、121-130頁、2019.5
- 加藤陽子、「日本象征天皇制的歴史考察」、『南開史学』、27期 2019年第1期、227-264頁、2019.6

(3) 書評

- ジェローム・グリーダー著、佐藤公彦訳、『胡適』、藤原書店、『毎日新聞』、2018.5.13
- 奈倉哲三ほか、『戊辰戦争の新視点 上・下』、吉川弘文館、『毎日新聞』、2018.6
- 東郷和彦、ANパノフ、『ロシアと日本 自己意識の歴史を比較する』、東京大学出版会、『UP』、550号、40-46頁、2018.8
- 牧野邦昭、『経済学者たちの日米開戦——秋丸機関「幻の報告書」の謎を解く』、新潮社、『毎日新聞』、2018.9
- 木庭頭、『誰のために法は生まれた』、朝日出版社、『毎日新聞』、2018.10.14
- 東郷和彦、A・N・パノフ、『ロシアと日本 自己意識の歴史を比較する』、東京大学出版会、『UP』、553、36-41頁、2018.11
- 河原地英武、平野達志訳、家近亮子、川島真、岩谷将、『日中戦争と中ソ関係』、東京大学出版会、『毎日新聞』、2018.11
- 美濃部達吉著、高見勝利解説、『憲法講話』、岩波書店、『毎日新聞』、2019.1
- 黒川創、『鶴見俊輔伝』、新潮社、『毎日新聞』、2019.1
- 日本史研究会ほか編、『創られた明治 創られる明治』、岩波書店、『毎日新聞』、2019.1
- 木畑洋一、『帝国航路を往く イギリス植民地と近代日本』、岩波書店、『毎日新聞』、2019.2
- 長谷部恭男、『日本国憲法』、岩波書店、『毎日新聞』、2019.3

仁藤敦史ほか、『古代王権の史実と虚構』、竹林舎、『毎日新聞』、2019.3
 巽由樹子、『ツアーりと大衆』、東京大学出版会、『毎日新聞』、2019.4
 尾藤正英、三谷太郎、原朗、『江戸時代とはなにか』『近代日本の戦争と政治』『満州経済統制研究』、『週刊 読書人』、2019.4
 大澤博明、『陸軍参謀 川上操六』、吉川弘文館、『毎日新聞』、2019.5
 春名宏昭、高橋典幸、村和明、西川誠、『皇位継承 歴史をふりかえり 変化を見定める』、山川出版社、『毎日新聞』、2019.6
 池田さなえ、『皇室財産の政治史』、人文書院、『毎日新聞』、2019.9
 宮内庁侍従職監修、『降りつむ』、毎日新聞出版、『毎日新聞』、2019.9
 朝日新聞社、『Journalism』、朝日新聞社、『毎日新聞』、2019.10
 牧原憲夫、『牧原憲夫著作集』上・下、有志舎、『毎日新聞』、2019.11
 本郷恵子、高橋陽一、高井ホアン、『院政、くわしすぎる教育勅語、戦前不敬発言大全』、講談社、太郎次郎社エディタス、合同会社パブリブ、『毎日新聞』、2019.12
 澤地久枝、『昭和とわたし』、文藝春秋、『毎日新聞』、2020.1
 大門正克、『増補版 民衆の教育体験 戦前・戦中の子どもたち』、岩波書店、『毎日新聞』、2020.1
 広田照幸ほか編、『歴史としての日教組 上・下』、名古屋大学出版会、『毎日新聞』、2020.2
 森まゆみ、『伊藤野枝集』岩波文庫、上野千鶴子・田房永子『上野先生、フェミニズムについてゼロから教えてください』大和書房、前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書、『毎日新聞』今週の本棚頁、2020.3

(4) 解説

加藤陽子、「負けた側の史劇が文学となるまで」、大岡昇平『レイテ戦記』(四)、255-262頁、2018.7
 歴史学研究会委員会、「歴史学研究会近刊書籍のご紹介」、『歴史学研究』月報、2018年9月号、2018.9
 加藤陽子、「戦争と大学の関係の深化を明らかに」、東京大学文書館所蔵『昭和19年学徒動員関係書類』パンフレット、2019.9

(5) 学会発表

国内、加藤陽子、「歴史と憲法のあいだ 天皇と憲法を中心に」、全国憲法研究会 憲法記念講演会、上智大学四谷キャンパス、2018.5.3
 国内、加藤陽子、「航空戦としての太平洋戦争」、ICU シンポジウム「“ここ”の歴史 幻のジェットエンジン、語る」、国際基督教大学、2018.6.2
 国内、加藤陽子、「「明治150年」を考える」、歴史教育者協議会70周年大会、京都府同志社中学・高校、2018.8.4
 国内、加藤陽子、「戦争の終わらせ方、負け方を想像する力」、戦争の終わり方を考える、東京大学文学部法文2号館二番大教室、2018.8.10
 国内、加藤陽子、「天皇と皇位継承のコスモロジー～『創られた明治 創られる明治』」、歴研 総合部会例会 シンポジウム「天皇と皇位継承のコスモロジー」、明治大学 リバティタワー、2019.4.13

(6) 啓蒙

加藤陽子、「「明治150年」を考える」、『歴史地理教育』、887、24-31頁、2018.11
 加藤陽子、「公開シンポジウム 後藤新平の「生を衛る道」を考える part2 戦争で生ずる境界領域と衛生」、『後藤新平の会 会報』、no.21、43-77pp、2020

(7) 会議主催(チェア他)

国内、「歴史学研究会 総合部会例会 天皇の身体と皇位継承」、チェア、東大文学部法文2号館1番大教室、2018.4.14

(8) マスコミ

「オピニオン 論点 ずさんな公文書管理 作成者の免責や時効も」、『毎日新聞 朝刊』、2018.4.13
 「天皇の「象徴」性とは何か」、『本』、講談社、2018.7.20
 「ドキュメンタリー「国家主義の誘惑」(渡辺謙一監督)の上映と対談」、『東中野 ポレポレ』、きろくびと、2018.7.29
 「戦後73年 戦争特番 学徒出陣「大学生はなぜ死んだ」」、TBS テレビ、2018.8.5
 「元首相が語った 公文書保存の意義 千代田で映画「陸軍前橋飛行場上映」」、『朝日新聞 朝刊 31面』、2018.9.1
 「現代への視点 加藤陽子さん講演」、『北海道新聞』、2018.10.2
 「論点 元号を考える 時代に即した法制度に」、『毎日新聞 朝刊』、2019.4.3
 「天皇はいかに受け継がれたか」、『週刊 読書人』、株式会社 読書人、2019.5.24
 「日記でたどる「日本人の戦争」」、NHK ラジオ第1、2019.8.14
 「時代の葉 戦争でも向き合う機会失った」、『朝日新聞 夕刊 三面』、2019.8.21

「公共」再構築の好機に そこが聞きたい 天皇代替わりを振り返る」、『毎日新聞』、2019.12.17

(9) 教科書

『詳説日本史』、加藤陽子、執筆、山川出版社、2018

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

東京大学文学部、「天皇と天皇制を考える」、2018.6

特別講演、内閣府、「歴史の中の公文書 悠久の時間と目の前の空間と」、2018.8

北海道新聞、「現代への視点 2018～歴史から学び、伝えるもの」、2018.9

ジュンク堂池袋本店、「太平洋戦争開戦日に考える 天皇と戦争、歴史と文学」、2018.12

朝日カルチャーセンター 新宿校、「『天皇はいかに受け継がれたか』を読む」、2019.4～2019.6

特別講演、立憲デモクラシーの会、「近代の天皇（制）と二つの憲法を考える」、2019.5

特別講演、日本弁護士連合会 東京弁護士会 第一東京弁護士会 第二東京弁護士会、「今、憲法を歴史から考える」、2019.5

兵庫県白陵高校、「なぜ、歴史を学ぶのか」、2019.7

「飛ぶ教室」、「飛ぶ教室 第2回」、2019.7

2019年「後藤新平の会」シンポジウム 後藤新平の「生を衛る道」を考える Part2、「戦争で生ずる境界領域と衛生」、2019.7

非常勤講師、九州大学文学部 九州大学大学院人文社会科学系研究科、「日本史学講義XX」「日本史特論IV」、2019.12

(2) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

出版梓会、出版梓会文化賞 銓衡委員、2018.4～

東京大学新聞、評議員、2018.4～